お悔やみ

Sassone-Corsi Paolo 先生を偲んで

平山　順✉
公立小松大学保健医療学部　臨床工学科

Sassone-Corsi Paolo 先生がご逝去されたとの連絡を受け、一つの精神的な支柱を失ったように感じています。謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、生前の先生との思い出を書かせていただきます。

私は、2003 年 3 月から 2008 年 2 月までの、フランス 3 年間と米国 2 年間の 5 年間、Sassone-Corsi 先生の研究室にポスドクとして留学させていただきました。留学できる可能性を知ったのは、博士課程の 3 年次（最終年次）でした。当時は、学位論文が Reject された状態で、多くの優れた論文を発表されている Sassone-Corsi 先生が本当に受け入れてくれるのだろうかという大きな不安がありました。論文を再投稿する前に、留学を希望することの趣旨のメールを送ると、直ぐに先生ご本人から「受け入れる」との返事がきました。嬉しかったのと同時に 1 日で留学が決定したことにとても驚いたのを今でも覚えています。この後、無事、学位論文が受理され、先生の研究室にポスドクとして加わることができました。後日、人づてに知ったことですが、先生には、私の知らないところで、再投稿した論文に関して助けていただいておりました。

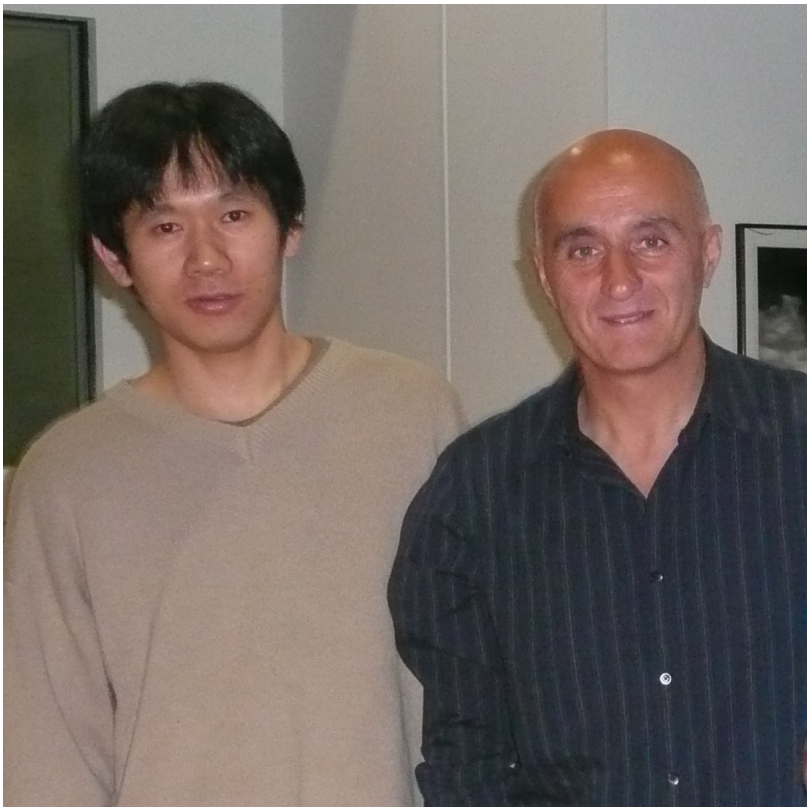
渡仏した翌日に、Sassone-Corsi 先生にはじめてお会いしました。とても緊張していた私に対し、簡単な日本語を交えて会話をするなど、とても気さくに接していただきました。先生の研究室のルールで印象深かったのは、ポスドクまたは大学院生が、自ら必要と判断する時に、先生に個別ミィーティングを依頼することです。渡仏後すぐの期間は、実験結果も少なく、また英語でのコミュニケーションに不安があり、ミィーティングの依頼を躊躇していました。最初のミィーティングは、渡仏後 3 ヶ月くらいの時でしたが、実験結果があった訳ではなく、このまま依頼をしないのは気まずいと考えたことが理由でした。このミィーティングでは、実験内容などを英語でうまく説明できませんでしたが、先生は結果を見て私の伝えたいことを読み取り、的確な助言をしてくれました。この時に、一定基準の以上の努力をしていれば、評価はしてもらえるという安心感を持つことができました。この後は、定期的にミィーティングをすることが楽しみになり、研究も効率的に進めることができました。

Sassone-Corsi 先生の研究室ではじめて発表した論文の内容は、論文投稿の直前に、競合していたグループに先行されてしまいました。ショックを受けていると、直ぐに先生が対応を協議してくれました。最終的に論文は、当時の同僚の先生方に助けていただき新たな結果を加えて、ストーリーを再構築し投稿した結果、無事受理されました。発表先の雑誌は、私にとってはそれまで経験したことないレベルの高いものでした。この論文は、留学中に研究をまとめられたことや複数の先生方の協力により競合相手に先行されたことに対処できたことからも、大きな意味を持つ論文の一つになっています。

2006 年の 4 月から、Sassone-Corsi 先生の研究室が米国に移動しました。米国でも先生の研究室には、世界中から優秀なポスドクが集まり、とても恵まれた研究環境が整えられていました。米国に移動したすぐ後に、先生と奥様の Borrelli 先生に、個人的に夕食に招待していただいたことがあります。この時に、Sassone-Corsi 先生から米国でどのように研究を進めていきたいと考えているかなどの研究やそれ以外のことに関してお話を聞かせていただきました。留学する前は、世界的に有名な先生と研究室以外の場所で話をする機会などないと考えていましたので、この経験は、私にとって一番の思い出の一つになっています。

Sassone-Corsi 先生には、大学院の修了後すぐに、フランスと米国という 2 つの異文化の地域で、研究をする機会を提供していただきました。また、自身の能力をはるかに超える業績を与えていただきました。さらに、世界的な研究者から直接、多くのことを学べたことは、現在も大きな財産となっています。Sassone-Corsi 先生には、心から感謝しております。

✉ jun.hirayama@komatsu-u.ac.jp



筆者（左）と Sassone-Corsi 先生